

U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 エネルギー価格の高止まりや株式市場の軟調な展開を受け消費者マインド悪化

(05年10月ミシガン大消費者センチメント)

発表日：05年10月14日(金)

～ただし、個人消費は堅調さを維持～

(No. UI - 125)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001 : seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp)

消費者信頼感 (Consumer Confidence)

	消費者信頼感指数		消費者信頼感 (Consumer Confidence)						ミシガン大学消費マインド		
	期待指数	現状指数	雇用判断		半年後の景況感		半年以内の購入計画		期待	現状	
			充分	困難	良くなる	悪くなる	自動車	住宅			
04/09	96.7	97.7	16.6	28.0	21.6	9.4	6.3	3.9	94.2	88.0	103.7
04/10	92.9	92.2	17.4	27.9	20.7	10.5	7.6	3.6	91.7	83.8	104.0
04/11	92.6	90.2	17.1	28.0	20.3	11.4	4.6	2.6	92.8	85.2	104.7
04/12	102.7	100.7	19.4	26.4	22.4	7.7	6.6	3.5	97.1	90.9	106.7
05/01	105.1	100.4	21.0	24.3	22.0	7.8	7.2	3.5	95.5	85.7	110.9
05/02	104.4	96.1	21.1	22.4	17.9	7.8	7.2	4.1	94.1	84.4	109.2
05/03	103.0	93.7	21.8	23.8	19.3	8.2	5.7	3.8	92.6	82.8	108.0
05/04	97.5	86.7	20.4	22.9	17.7	9.9	5.8	4.1	87.7	77.0	104.4
05/05	103.1	93.4	22.9	24.1	19.0	9.5	7.8	3.5	86.9	75.3	104.9
05/06	106.2	96.4	22.5	22.5	19.5	9.0	6.6	3.6	96.0	85.0	113.2
05/07	103.6	93.2	22.9	23.8	17.9	9.5	7.6	3.8	96.5	85.5	113.5
05/08	105.5	93.3	23.6	23.1	18.7	10.0	6.2	3.5	89.1	76.9	108.2
05/09	86.6	71.7	20.1	25.4	15.3	19.8	5.8	3.5	76.9	63.3	98.1
05/10									75.4	62.4	95.7

(出所) The Conference Board, University of Michigan

(注) 「雇用判断」、「半年後の景況感」、「購入計画」の単位は%で、全体に占める割合を指す。

市場予想に反し1.5ポイントの低下

05年10月のミシガン大学消費者センチメント指数(速報値)は、75.4と市場予想の80.0への改善に反し前月から1.5ポイント低下した。雇用・所得の拡大が続いているものの、エネルギー価格の高止まり等によって3ヵ月連続の悪化となった。ただし、マインドの下落幅が小さいことから、10月の個人消費が急激に減速する可能性は小さい。

内訳は、現状指数が0.9ポイント、期待指数が2.4ポイントの低下となった。現状・期待が変化した要因をみると、現状判断は雇用・所得の拡大が持続しているもののガソリン価格の高止まりを背景に悪化したと考えられる。一方、期待指数は景気が堅調に推移しているが、株価の軟調な展開や原油価格の高止まりによって景気の先行きに対する楽観的な見方が後退したと考えられる。

10月上旬の各種消費者マインド調査は悪化に歯止め

10月の他の消費者マインド調査をみると、TIPP景気楽観指数(10月3日～8日調査)が41.2から42.0に上昇、ABC/ワットポスト消費者信頼感指数は9月の平均の19.8から10月第1週には19.5とエネルギー価格の高止まりの影響で消費者マインド調査は軒並み低迷しているものの悪化に歯止めがかかっている。景気が堅調さを維持する中、消費者マインドに影響を与えた原油価格は足下で低下傾向を辿り、ガソリン価格も小幅低下に転じていることから、緩やかにマインドは改善に向かっているとみられる。

一方、マインド調査期間と同時期(10月第1週)の消費動向を示す統計をみると、週間小売売上高はガソリン価格の高騰や、残暑に伴う秋物衣料の不振の影響を受けた

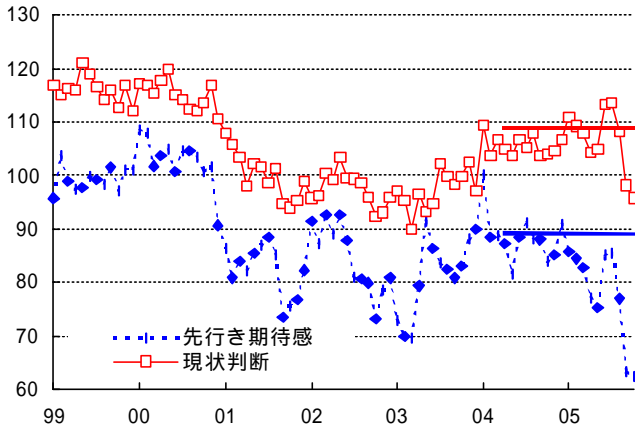
ものの、10月第1週が前週比+0.2%と増加している。また、前年比では3%程度の伸びを維持していることから、消費者マインドの低下にもかかわらず足下の個人消費は底堅く推移していると判断される。

今後マインドは改善が予想される

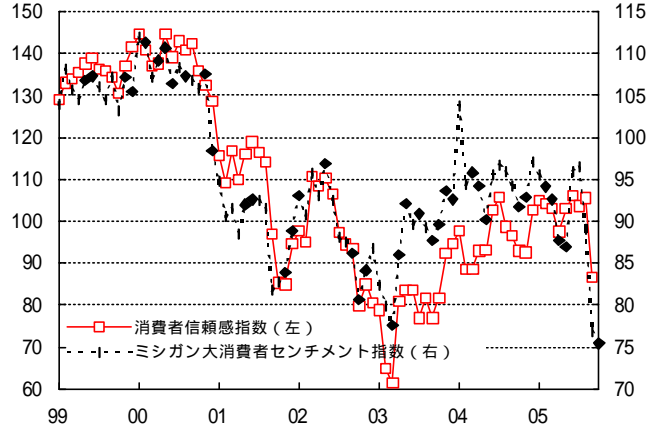
エネルギー価格に関しては、石油の精製能力が大幅に低下しているが、緩やかながらも施設の再開が続いていること、ガソリンに対する環境規制や輸入船籍規制を緩和したこと、加えてIEA加盟各国が原油・石油製品備蓄を放出することによって石油製品の供給が世界的に増加するためボトルネックに陥るリスクは低下している。今後、供給不足懸念を理由にエネルギー価格が上昇すれば、追加の備蓄放出が決定される可能性が高い。また、投機マネーの流入によってエネルギー価格が一段と上昇すれば景気の減速懸念が強まり上値は追い難いことから、当面、エネルギー価格の上昇には歯止めがかかると予想される。

ハリケーンの襲来にもかかわらず9月の個人消費が堅調さを維持するなど景気に対する楽観的な見方が再び強まる可能性が高い。また、ブッシュ政権がハリケーンでの被害に対して積極的に補正予算を組んでいるため、持続的な景気拡大期待が強まるとみられる。これらのことから、消費者マインドは今後改善傾向を辿ると予想される。

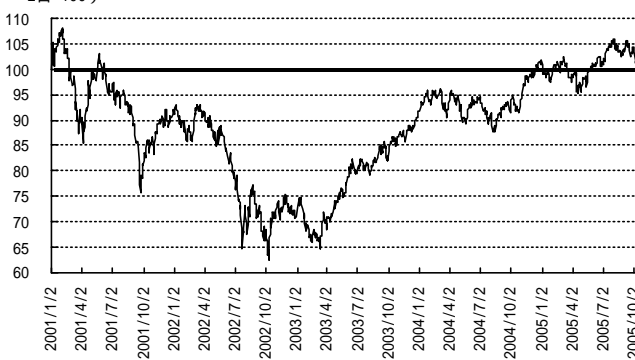
ミシガン大消費者センチメント指数の推移



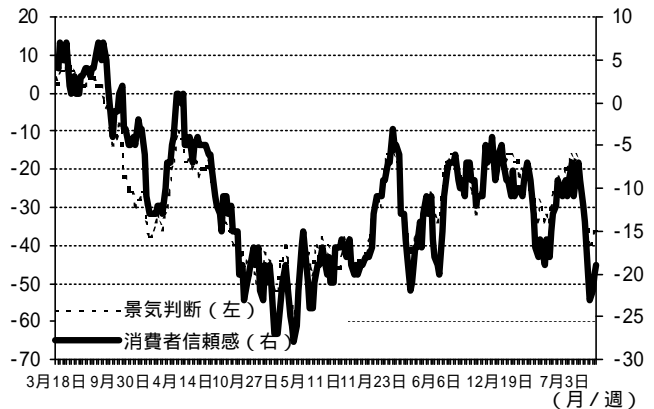
消費者マインドの動向



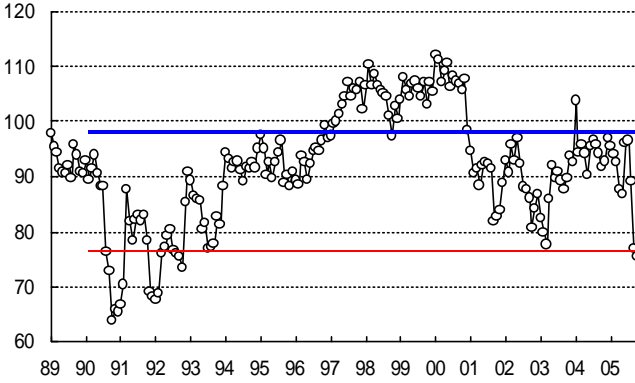
(01年1月 2日=100) ウィルソン5000の推移(2001年1月2日~2005年10月12日)



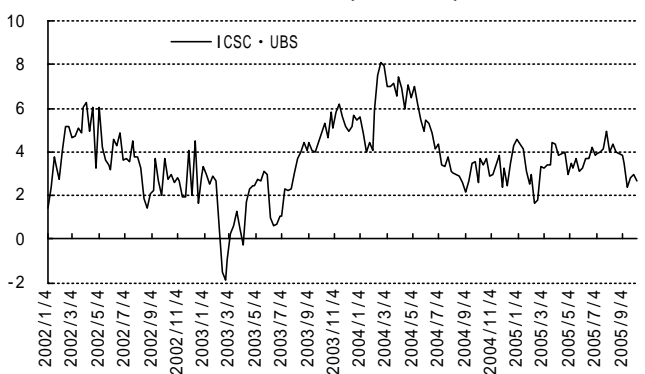
A B C / ワシントンポスト週次消費者信頼感指数構成項目の推移



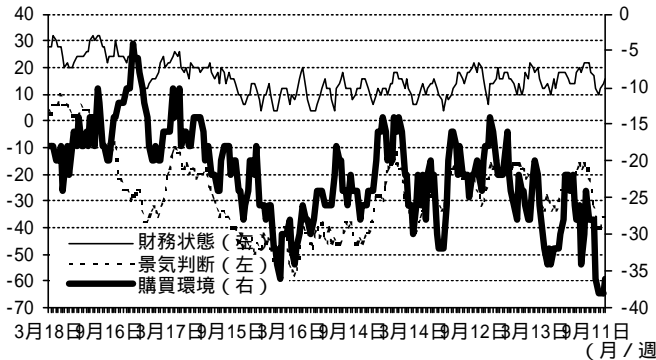
ミシガン大消費者センチメント指数の推移



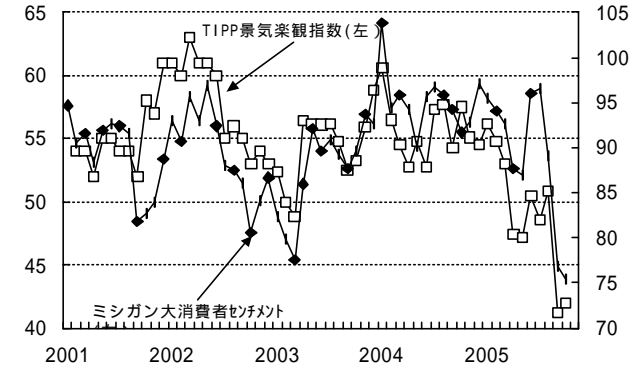
(%) 週間小売統計(前年同週比)



A B C / ワシントンポスト週次消費者信頼感指数構成項目の推移



消費者マインドの推移



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命いしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。